

診療局：内科《総合内科・感染症内科》

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
総合内科・感染症内科部長 兼感染症センター長兼院内感染対策室長 兼臨床研修センター副センター長兼産業医	倭 正也
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交 重雄
医長兼国際診療科医長	名倉 功二(9月退職)
医 長	葛城 有希子
副医長兼院内感染対策室副室長	関 雅之
医 員	山本 雄大

総合内科・感染症内科

—概要—

現在の医療は高度の専門化が進んでいる一方で、様々な病気を併せ持つ患者に対して「全人的医療」を行うことのできる医師が少なくなっている。そこで当院では2013年4月より総合内科・感染症内科を新たに立ち上げ、診断のついていない症状ではじめて当院を受診され、どの専門科を受診すればよいかわかりにくい患者に対して、専門分野を横断的に診療する幅広い総合診療を行っている。さらにその際に感染症および膠原病の診療を行う機会も多く、これも当科にて診療を行っている。

具体的には、一般内科疾患全般(内科救急疾患を含む)をはじめ原因不明の持続する発熱(不明熱)、関節痛などといった症状を持たれた患者の外来、入院診療を行っている。またその際に、高度な専門医療を要する場合には適切な各専門科に紹介させていただいている。さらに、当科以外の各専門科において入院治療を要する患者に対しても、専門科と良好なコミュニケーションを保ち、多角的に相互補完するバランスのとれたチーム医療を実践し、患者の全身管理のサポートを行っている。

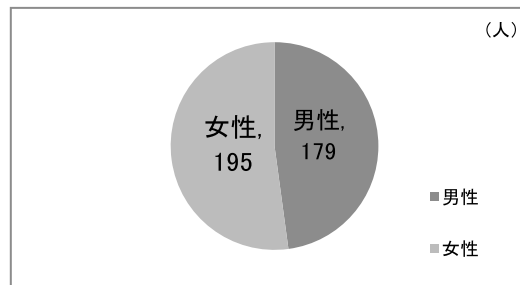
また、輸入感染症の診療も当科の重要な任務の1つである。当院は、厚生労働大臣指定の我が国で4か所の特定感染症指定医療機関の1つであり、西日本では唯一である。当科にて感染症センターに入院された患者の診療を行っている。特に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診断、診療を行っている。

2013年4月、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターがひとつの病院として統合した。救命救急センターとの相互連携を深め、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが多角的に相互補完する、これからの地域医療を支える新たな診療体系の構築を目標に、総合診療の体制を発展させている。

—実績—

◆外来初診患者数(2021年度)

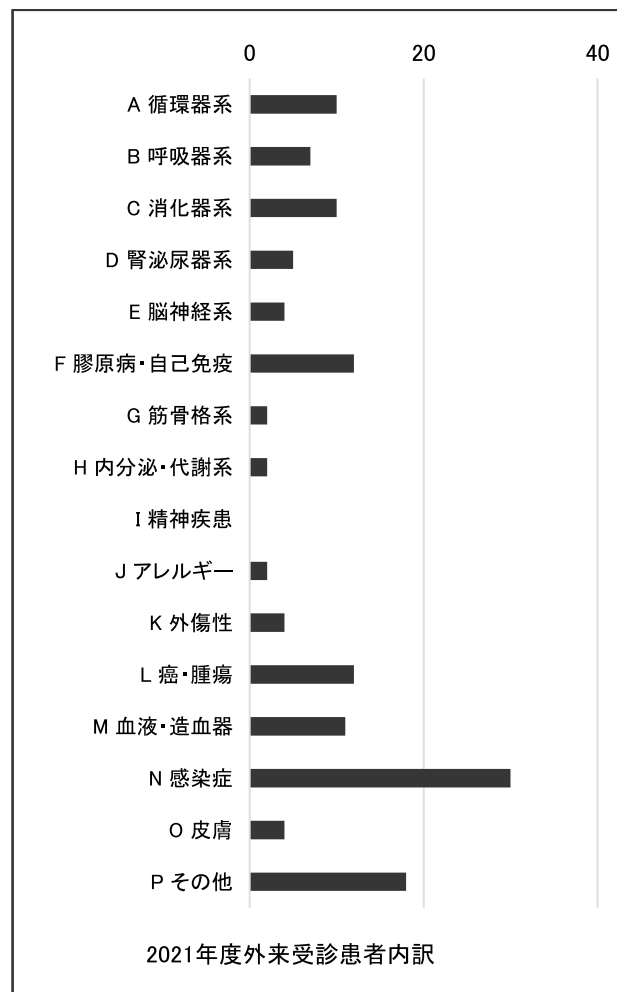
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	17	12	12	13	16	22	14	19	12	15	12	15	179
女性	15	10	15	26	18	20	23	16	15	11	15	11	195
合計	32	22	27	39	34	42	37	35	27	26	27	26	374



◆入院患者数(2021年度)

新入院患者数													
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
56	38	33	43	51	33	15	17	23	23	38	13	383	

延べ入院患者数													
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
908	868	456	497	844	587	364	244	396	377	925	745	7,211	



A 循環器系	
感染性心内膜炎 (2021/9/25 S)	1
起立性調節障害	1
高血圧・腰椎症	1
上腕皮下出血	1
徐脈	1
心不全	1
低血圧	1
腹部大動脈瘤	1
蜂窩織炎 下肢静脈瘤	1
放散痛	1
B 呼吸器系	
咳嗽	1
気管支喘息	1
混合性換気障害	1
サルコイドーシス	1
嚔胸	2
慢性気管支炎	1
C 消化器系	
回盲部憩室炎	1
逆流性食道炎	1
憩室炎	1
下痢	1
脂肪肝	1
心窩部痛	1
大腸憩室炎	1
大腸腫瘍	1
バレット食道・食道裂孔ヘルニア	1
便秘症	1
D 腎泌尿器系	
急性腎盂腎炎	1
高尿酸血症	1
腎機能障害	1
低カリウム血症	1
尿路感染症治療後	1
E 脳神経系	
髄膜炎	1
頭痛、扁桃炎	1
片頭痛	1
ラクナ梗塞・高血圧・脂質異常症	1

F 膠原病・自己免疫	
RS3PE症候群	1
関節リウマチ	3
巨細胞性動脈炎	1
シェーグレン症候群	1
慢性肉芽腫症	1
リウマチ性多発筋炎	1
リウマチ性多発筋痛症	2
リウマチ性多発筋痛症・潜在性結核感染症	1
リウマチ性多発筋痛症再燃	1
G 筋骨格系	
右頭部痛	1
膝骨近位疲労骨折	1
H 内分泌・代謝系	
亜急性甲状腺炎	1
糖尿病	1
I 精神疾患	
	0
J アレルギー	
アレルギー(黄熱ワクチンにふくまれる鶏卵成分)	1
食物アレルギー	1
K 外傷性	
犬咬傷	1
ダニ刺咬傷	1
電撃傷後	1
針刺し(他院にて)	1
L 癌・腫瘍	
S状結腸癌	1
胃癌	1
子宮頸部悪性腫瘍	1
十二指腸癌	1
肺癌	4
左下葉肺癌(腺癌) 縦隔リンパ節腫脹	1
膀胱癌	1
右腹壁骨軟部腫瘍	1
腭頭部癌、肝転移、腹膜播種、骨転移、軟部組織転移	1
M 血液・造血器	
軽度大球性貧血・高血圧	1
好酸球増多	1
髄膜腫	1
大球性貧血	3
鉄欠乏性貧血	4
発熱性好中球性減少症	1

N 感染症	
2期梅毒	1
COVID-19後の器質化肺炎	2
COVID-19後慢性呼吸不全	2
サルモネラ感染症	1
潜伏梅毒	1
陳旧性肺結核	1
伝染性単核球症	2
肺炎	5
肺炎治療後	2
梅毒	2
梅毒治療後	3
肺非結核性抗酸菌症	1
発熱	5
不明熱	2
O 皮膚	
湿疹	1
失神・尋麻疹による意識障害	1
尋麻疹	1
多発膨疹	1
P その他	
下肢痛	1
家族性地中海熱	1
下腿血腫	1
下腿浮腫	1
過換気症候群	1
急性副鼻腔炎	1
頸部リンパ節炎	1
頸部リンパ節腫脹	1
凍結肩による上腕への放散痛	1
再発性口腔アフタ	1
上大静脈症候群	1
振戦	1
全身倦怠感	1
副鼻腔炎	1
両下肢浮腫	1
臍ヘルニア	1
慢性耳下腺炎	1
リンパ瘻	1

—今年度の成果と反省点—

他診療科からの特に感染症診療についてのコンサルト件数の増加が年々認められている。当科医師はICT(Infection Control Team)およびAST(Antimicrobial Stewardship Team)活動を担っており、その活動については院内感染対策室の項に記載した。ICU/CCU入室の重症患者についても、主科の医師と協議し抗菌薬などの治療について検討するなど抗菌薬の適正使用の周知、徹底に努め、不適切使用はほとんど認められていない現状である。

なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)については院内感染対策室および感染症センターの項目に記載している。今後も新たに発生、あるいは感染拡大する新興感染症の診療体制をより確実に構築できるようスタッフの教育、専門医育成に尽力していくことが求められる。

—来年度への抱負—

地域からご紹介などの診断困難症例、不明熱、重症感染症患者および新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療にさらに尽力していきたい。また、他診療科とのさらなるコミュニケーションを図り、感染症診療においては今後も引き続き抗菌薬の適正使用に努めたい。

さらに、講演、学会発表、学術論文の作成など研究活動に一層力を入れていきたい。

特定感染症指定医療機関として、地域全体の各医療機関および関西空港検疫所との連携体制をより強固に構築していきたい。